＜清和台中学校　学校関係者評価＞

今年度の学校評価を行うにあたり、職員、生徒、保護者にアンケートを行った。その結果をもとに、今年度の教育課程や学校教育活動について学校関係者（学校評議員）に説明を行い、以下のようなご意見をいただいた。これらのご意見については、全職員に周知するとともに、次年度の学校教育目標の設定、並びに教育課程編成の参考とする。

1. 全体的には、生徒、保護者ともに、肯定的な回答が多く、概ね良好な状態である。しかし、学年ごとに見ると、2年生に否定的な回答が増加している。2年生は、来年度最上級生となることを考えると、学校全体に及ぼす影響が大きく、今後信頼回復に向けた対策が必要である。3年生については、肯定的な回答が増加しており、職員との信頼関係が良好であることがうかがえる。
2. 昨年度の反省をもとに、生徒指導に重点を置いた指導がなされており、その結果、学校全体が落ち着いた状態となり、問題行動件数が半減するなどの成果が見られる。また、校内、校外を問わず、ルールやマナーを守って生活できる生徒が増えていることも評価できる。
3. 学校行事に対する生徒の充実感は高いが、学習発表会の演劇がなくなったことに対して保護者からの不満の声がある。より一層学校行事の活性化を図るとともに、今後の方針について再度保護者に周知し、理解を得ることが必要である。
4. 朝読書については、概ね良好な状態である。しかし、考査前学習会や週末課題については、生徒、保護者だけでなく、職員にも否定的な意見が多く見直しが必要である。特に週末課題については、全学年思考力を養う課題へ変更予定であるが、なぜそれが必要なのかを生徒に理解させたうえで、取り組ませなければ効果は上がらない。
5. 経験の浅い若い職員が多く、生徒指導や学級経営等で苦労が多いことは理解できる。しかし、いかなる場合においても真面目な生徒が攻撃されるようなことがあってはならず、学校は誰もが安心して生活できる集団作りに努めなければならない。生徒との信頼関係作りを進めるとともに、集団をより良い方向に引っ張っていけるリーダーを育成することが重要である。
6. 総合的な学習の時間等を使って、キャリア教育の充実が図られており、その方向性は評価できる。しかし、今何を学習しているのか、どのような取組を行っているのか等、保護者に対してもっと積極的に発信するべきである。保護者の理解が深まれば、家庭で共に考えるためのきっかけにもなり、学習指導の有効性が増す。また、取組がマンネリ化しないように工夫する必要がある。
7. ホームページや各種通信により、学校の様子を適切に知らせていることは高く評価できる。今後も家庭連絡も含め、適切な情報提供を行うことで、家庭や地域との連携をさらに深めてもらいたい。
8. 常態化している職員の長時間勤務を何とか改善してもらいたい。今の状態が続けば身体的影響が懸念される。部活動の外部指導員を積極的に活用する等、さらなる対策が必要である。